



女性初・111杯の三宅みのりさん

3分間で記録を更新



岩手の郷土料理「第10回わんこそば祭り」が5月15日、県人会ホールに「ソバファン」を迎え、食べ放題の美味しいソバを約300人が賞味した。

競技の部（3分）は、5人ずつ計10回も行われ、女性の三宅みのりさん（39歳）は、これまで女性の部で三連覇、4回目の挑戦で111杯を平らげ男性を上回る新記録を更新した。昨年優勝（89杯）の男性有村良治さんは105杯で、第7回の106杯（藤井さん）に迫る記録だった。

毎年「わんこそばまつり」は、コロナ催しの話題になり、お陰さまで10回目が期待され、大勢のお客さんを動員した。近年は日本からの駐在員家族、留学生、ブラジル人などと、日本人

学校（佐々木）の先生（戸町出身）は同僚先生方を誘って頂いた。



チビっ子も大奮闘

サンパウロ州立大学人文科学部（FFLCH）に、2月から留学している金石市出身の小原芽惟さんは、競技4回目に挑戦し71杯でグループ優勝。故郷岩手県のイベントに参加できたようで、大変嬉しく思っておりますとメールがあった。

同じく遠野に在住したはやしださんは小原さんと同グループに参加した



林田麻美さんは59杯で3位だった。

3位以下は96杯の杉田直久さん、4位91杯の内海拓也さん、5位は84杯の井上マ

ルセロさんだった。

因みに用意されたソバ（日本製）は70キロ。競技に使った「お椀」の数は3,008個だった。ゆっくり味わったあるお客さんは、ざるそば5杯

大盛況！わんこそばまつり

Festival de Wanko-soba



を平らげたと云う人もいたとか。

会場は満席であった

汁は回を重ねる度に美味しい汁をと研究しお陰で「まつり」は、日



系人はじめブラジル人も楽しむ県人会最大のイベントとして成長した。これも偏に参加される皆さん方のお陰と感謝している。（写真 県人会、伊東信比古氏、倉谷和憲氏）



中央トロフィーを手に小原芽惟さん、左に林田麻美さん



祭を盛上げた県人会の皆さん

4月24日(日)1月から4月生まれの誕生を祝う会員交流会が行われ、木曜日からの日曜日まであり会員家族の集まりが少なかったが約40名が参加した。

多田副会長の司会で県人先亡者、東日本大震災5年犠牲者や熊本地震犠牲者へ1分間の黙祷を捧げた。

千田会長は会員皆さんの協力で59回目の交流誕生会を迎えたことを感謝した。また、5月1日には東北ブロック運動会、15日には第10回目の「わんこそばまつり」、7月8・9・10日と県連主催の第19回「日本まつり」などへの参加をお願いした。

乾杯は賛助会員の武田春夫氏の音頭で祝杯をあげ、会員皆さん持寄り料理で食卓会が始まり会員同士の懇談に花を咲かせた。

乾杯は賛助会員の武田春夫氏の音頭で祝杯をあげ、会員皆さん持寄り料理で食卓会が始まり会員同士の懇談に花を咲かせた。



食事後ビンゴが行われ出る数字に一喜一憂。初めて1等に当たった会員や続けて当たった会員もいて大喜びだった。

第59回会員交流誕生会 Confraternização e Aniversario



また、千田会長より県人会名誉会長の菊地義治氏へ、達増拓也県知事から高齢者を称える「賀詞」が伝達された。菊地さんは、県人会や会員のお陰と受賞の喜びを語った。

続いて1月生まれから4月生まれの会員や家族などの「誕生会」が行われ、集まった皆さんに祝福された。

のど自慢者のカラオケもあり楽しい一日だった。



ブラジルから 思い届け

東日本大震災から5年



東日本大震災から5周年を迎えた3月11日、ブラジル岩手、宮城、福島、福島の3県人会主催による、東日本大震災5周年を迎え、犠牲者追悼・復興祈願式が宮城県人会ホールで開催され、日系団体や各県人会、一般など約100名が犠牲者の追悼と復興を祈った。

開会時間まで「大震災の記録(岩手県)」を上映。はじめに永山福島県人会長の挨拶があり、出席者全員が菊の花を献花し犠牲者の冥福を祈った。

また母県の各知事から寄せられたメッセージの代読され、遠く離れたサンパウロでの追悼式に感謝の意を表した。

石巻日日子ども新聞の子供たちが発信していくことで「震災の辛い経験」を溜めこまずにすむのでは」との思いから子供新聞の経緯をブラジル支部の福島さんが話した。また福島県いわき市で栽培された綿花で作製した「コットンパイプ」と称される人形の中に綿花の種が入っており、その種を栽培し出来た綿を送り返す農業プロジェクトが紹介された。

中前隆博総領事は、2020年東京オリンピックに向け、より復興した東北を見せられるよう努力しなければと語った。また、ブラジル健康体操協会によるイッペー音頭や、「花が咲く」の合唱があった。

中沢宮城県人会長は震災を通して日本とブラジルの繋がりを強調。千田岩手県人会長は「ふるさとを思う気持ちは一つ。被災地皆さんには「牛歩のごとく」焦らず一歩一歩と前に進んで欲しいと結び閉会した。(写真提供 尾崎真次埼玉県人会長)



3月3日 県人会ニュース191号ふるさとだより⑤併合を国内外へ発送
 11 県より上山誠（かみやま まこと）さんの土地問題で、宮古市太田
 実さんから依頼と連絡あり。消息依頼状を上山さんへ発送
 16 県連役員会に会長出席
 23 19 回日本まつり緊急会合に会長出席
 28 4 月度役員会案内状など発送
 30 県連役員会に会長出席
 31 県連代表者会・総会に会長出席、役員改選では山田康夫（滋
 賀県）会長以下諸役員が選出される。一世4名。二世10名
 4月9日 会計監査 平野マリアさん、大関輝子さん、手嶋ジョージさ
 んで行う。午後役員会開催 誕生会、わんこそば、日本まつりなど
 14 24日の誕生会、その他県人会プログラムを会員へ発送
 21 会長わんこそばまつりの案内に邦字紙訪問
 25 県の八巻市より、八重樫亜紀研修生の在留資格認定書の送付
 26 文協が白寿者表彰に柗沢千秋氏（一ノ関東山町出身）を申込み
 29 県関係機関、南米県人会に県連報告書 2016 を発送

5月1日 第12回東北ブロック運動会に 1000 名以上が参加賑わった
 4 1階調理場に換気扇設置開始
 7 5 月度役員会 議題 わんこそば、日本まつり、その他
 10 リオ五輪取材予定の岩手日報スポーツ斎藤孟記者より問合せあり
 15 第10回わんこそば祭り開催。大盛況だった
 22 千田会長、多田副会長は、「熊本地震」募金活動（運動会やわ
 んこそば祭など）で募った募金（R\$1,000.00）を九州ブロック運動
 会会場で、田呂
 丸熊本県人会長
 に贈呈した
 25 県連代表者会に
 会長出席
 26 日本まつり用冷
 凍コロッケ作り作
 業あり。34名が
 お手伝い



はなまきし ささき むか 花巻市から佐々木さんを迎える



4月21日、
 午後花巻市
 で主に鋼鉄
 製橋梁や水
 門を製造設
 置会社「中
 央コーポー
 レーション」代
 表取締役社
 長佐々木史

昭氏が、以前同市ロータリークラブで引受けたブラジルからの留学生
 Luciana Minei さん（サンパウロから約100キロのインディアナポリス市在）
 の結婚式への招待を受けて来伯された。

佐々木氏はニューヨーク県人会の佐々木まり子さんのお兄さんで、今
 度ブラジルに行くご連絡したところ、サンパウロの県人会に寄ればと助言

があったそうで、来伯を前にメールの問合わせもあった。

佐々木さんを千田会長、多田副会長で迎えた。佐々木さんの企業は、
 東日本大震災被災地復興関連の橋梁や水門などで、被災地に貢献し
 ていると話があった。また、達増県知事や南部美人の久慈さんなどと
 の交友があると話された。

県人会では会の内外活動状況や資料を提供してお話した。夕刻は市
 内レストランで会食しながら、様々な話で盛り上がった一時を過ごさ
 せて頂いた。翌日はサンパウロ市内視察、土曜日の結婚式出席後リオを
 視察され帰国されるとの事。

イグアス岩手県人会から役員改選のお知らせがありました

会 長	小原 和子	軽米町出身
副会長	菅原 祐一郎	二 世
総 務	小原 真美	二 世
会 計	福井 伸一	二 世

ピラポ岩手県人会新役員 パラグアイ

ピラポ岩手県人会の定期総会が先日行われ、5月2日新小野寺
 事務局さんから役員名を受信しました。

会 長	佐藤 豊	花巻市笹間出身
副会長	工藤 好雄	八幡平市田上出身
会 計	千田 吉二	一関市大東町出身
事務局	小野寺 彩香	北上市和賀町出身

寄付・寄贈（敬称略）

三部キエ R\$ 400,00, お茶菓子 来訪者多数、図書多数、

ふるさと図書室利用数

1月 418冊 103名、2月 491冊 95名、3月 510冊 101名、
 4月 460冊 95名、

事務所来館者数（1階の多目的利用者は含まれません）

1月 398名、2月 411名、3月 449名、4月 408名、

会費納入者名（敬称略 年額 R\$90.00）ANUIDADE 2016

3月 亀ヶ沢アメリア (Amelia Kamegasawa), 多田孝則マウロ (Mauro Tkanori Tada), 多田登 (Nobori Tada), 佐々木寛一 (Kanichi Sasaki),
 菊地透 (Tooru Kikuchi), 千田輝海 (Teruumi Chida), 柗沢千秋 (Chiaki Tochizawa), 上村 敬子 (Keiko Kamimura), 柗沢久仁夫 (Kunito Tochizawa), 鈴木金人 (Kaneto Suzuki), 鈴木秀人 (Hideto Suzuki),
 大志田良子 (Ooshida Ryoko), 千葉キク (Kiku Chiba),
 4月 村川 猛 春 (Takeharu Muwakawa), 村松 弘 一 (Kouichi Muramatsu), 浅見 マリア (Maria Assami), 野村 みつ子 (Mitsuko Nomura), 吉田みちこ (Mitiko Yoshida), 切田諒美 (Masami Kirit),
 工藤五三郎 (Gosaburo Kudo), 菊地満 (Mitsuru Kikuchi), 児玉勲 (Isao Kodama), 伊藤範夫 (Norio Ito), 5月 田鎖満 (Mitsuru Takusari),
 平尾宏子 (Hiroko Hirao), 平野マリア (Maria Hirano), 米沢ネルソン (Nelson k Yonezawa), 高橋凡児 (Bonji Takahashi),

あきば うんどうかい 秋晴れの運動会



5月1日、雲一つ無い秋晴れのもと 子供たちのパン食い競争
(競技は室内体育館で行われた)、第12回東北6県北海道ブロック青年部主催の運動会がコレジオ・アルキジオセザノ校で開催され家族や
ブラジル人など約700人が楽しく競技参加や応援で過ごした。

多田岩手県人会副会長の司会で先亡者への黙祷、日伯国歌があり、
担当県(北海道)の大沼会長が運動会
で楽しい一日を過ごして下さいと
挨拶、熊本地震で大災害を受けた
被災地へと、田呂丸熊本県人会



長が支援募金をお願いしますと
挨拶があった。

はじめに健康体操があり、夫
人たちのトウモロコシ(Milho)
拾い、子供と大人のパン食い
競争、子供の50mや100m

の麻袋競技、二人三脚、帯を使ってボールおくりなどあった。昼食時
間には岩手県人会太鼓「雷神」の演奏が行われた。会場では青年
部や福祉団体の屋台が並び、長い行列もあった。



午後の部は、年配者や子
供のボール送り、3人一組と
なる嫁舅探し、子供の買
物や卵送り、老人の封筒拾
い、綱引き、玉割、玉入
れやリレーなど全21競技が



行われ老若男女も童心にかえり運動会
を楽しんだ。
岩手県人会では運動会来場者に熊本
地震への義捐金をお願い受付、「わんこ
そばまつり」でも募り、後日、熊本県人
会へ贈呈された。

ふるさとだより ⑥

記事提供 岩手日報社 WebNews

震災5年、盛岡で

「復興への誓い」犠牲者に祈り



盛岡広域8市町でつくる盛岡広域首長懇談会(会長・谷藤裕
明盛岡市長)は11日、東日本大震災から5年に合わせ「復興
への誓い」を同市中心部で開いた。首長や行政関係者のほか、
盛岡地域で生活する被災者らも出席。5年の歩みと古里の今に
思いをはせながら、犠牲者に祈りをささげ、復興への決意を新た
にした。

同市内丸の県公会堂で行われた式
典には、約400人が出席。会場では
政府主催の追悼式を中継した。震災
発生時刻の午後2時46分に黙とうを
ささげ、犠牲者の冥福を祈った。

同日は岩手公園などで県内外か
ら寄せられた1万個以上の灯籠に明
かりをともし「祈りの灯火(ともしび)
2016」も併せて行われた。【写真＝
震災の犠牲者を悼み黙とうをささげる
出席者】(2016/03/11)

女性のトラック運転手応援金ヶ崎町、担い手確保へ

金ヶ崎町は2016年度、女性の定住促進策の一環で、地元企業の女性トラック運転手育成を奨励する「トラガール育成補助金」を創設



する。女性社員が町内に転入し、大型免許を取得した場合に企業に対し1人当たり60万円を交付する。町は県内有数の岩手中部工業団地を抱え

るが、運転手の担い手不足が深刻化しており、女性の活躍支援と担い手確保を狙う。

町は関連事業費240万円を盛り込んだ16年度一般会計当初予算案を開会中の町議会3月定例会に提案した。初年度は4人分の交付を見込む。補助制度は町内に事業所を置く企業が対象。町外から転入した女性を正社員に採用し、半年または1年以内に大型免許を取得することなどを条件に想定している。

同町は県内市町村で唯一、女性の人口が男性よりも少なく、男性の未婚率も高い。少子化対策で女性が働きやすい環境づくりが課題となっている。

【写真＝同僚と談笑する白金運輸のタンクローリー運転手（右）。金ヶ崎町は運送業の女性進出を補助金で支援する】(2016/03/14)

高台移転前に絆の記念写真 野田の町内会がお別れ会

東日本大震災で甚大な被害を受けた野田村中心部の住民でつくる旧旭町町内会（大沢継弥会長）は13日、同村玉川の国民宿舎えぼし荘で高台移転前のお別れ会を開いた。元住民を含む約90人が集い、思い出を語り合った。

かつて隣近所だった住民ごとにテーブルを囲み、笑顔で記念写真を撮影。久しぶりの再会を懐かしみ、積もる話に花を咲かせた。

大沢会長（70）は「これからそれぞれの町内会で暮らすことになるが、移転した後も以前の仲間と協力してもらえれば」と願った。

お別れ会は、4月から村最大の城内地区高台団地で災害公営住宅

の入居が本格化するのを機に、大沢会長ら旧町内会の役員が企画した。【写真＝

記念写真に納まり、再会を喜ぶ旧旭町町内会の住民たち】(2016/03/15)



岩手国体の盛り上げ着々「参加宣言」500件突破

岩手国体本大会まで200日となった15日、盛り上げやおもてなしを



担う活動団体を登録する「130万人で参加宣言！」の登録団体が500件を突破した。県国体実行委は同

日、第500号の登録団体として、会場で郷土食などをふるまう北上市食生活改善推進員協議会（阿部三津恵会長、会員366人）に登録証を贈った。

同会は、特産の桑茶パウダー入りひつみつみ汁などを考案中。阿部会長は「国体に携わることができてとても光栄。心を込めて作りたい」と決意を示した。

同登録制度は昨年4月2日の開始から15日までに531団体が登録。本大会開催までに2千団体を目指す。

【写真＝達増知事（左から2人目）から登録証を受けた阿部三津恵会長（同3人目）ら】(2016/03/16)

胆江地方の春祭りの先陣を切る奥州市水沢区の羽田町火防祭（かぼうさい）（同実行委主催）は27日、同市水沢区羽田町の商店街で行われた。鉄器の灯籠を飾った屋台が練り歩き、鋳物のまちに春の到来を告げた。

名物の羽田町剣ばやしは、鋳物屋台を33歳厄年連・子輝舞会（しきぶかい）が先導。陽光が差す中、鉄の鳳凰（ほうおう）や竜が重厚な輝きを放ち、着物姿の女兒が太鼓を響かせた。

同祭は昭和初期の大火を機に始まり、地域の防災意識を高め

鋳物のまちに春到来

奥州・羽田町火防祭

る祭りとして定着。歌手八代亜紀さんらのライブも人気を集めた。【写真＝着飾った子どもたちが太鼓の音を響かせ、鋳物屋台が練り歩いた羽田町火防祭＝27日、奥州市水沢区羽田町】(2016/03/28)



ワカメ塩蔵、和やかに 田野畑、芯抜き作業盛ん

田野畑村切牛で養殖業を営む佐々木森一さん（66）の作業小屋で、塩蔵ワカメづくりが最盛期を迎えている。芯抜き作業に励む浜の女性たちの明るい笑い声が室内に響き渡る。近くに住

む女性5人と作業する妻の英子さん（65）は「もうみんな大ベテラン。時折会話をしながら、みんなで一生懸命に作業をしている」とほほ笑む。

島越地区の養殖ワカメの収穫は1週間ほど前から始まった。水揚げしたほとんどを塩蔵ワカメに加工する。漁業者らは深夜に船を出して収穫し、漁港に戻ると早速ボイル作業を行い、塩を混ぜ合わせる。日中には女性らが芯抜き作業に当たり、選別して箱詰めする。作業は約1カ月間、ほぼ毎日行う。森さんは「今年は少雪の影響か、丈が少し短い、色つやと味は最高」と太鼓判を押し、「田野畑のおいしいワカメを多くの人に味わってほしい」と呼び掛ける。【写真＝最盛期を迎えた塩蔵ワカメの芯抜き作業。女性らが笑顔を浮かべながら仕事に精を出す＝田野畑村切牛】(2016/03/31)

アスピーテライン 15 日開通 八幡平，除雪進む



5日の県内は高気圧に覆われ、全域で晴れて気温も上がった。八幡

平市と秋田県を結ぶ八幡平アスピーテラインは、冬期通行止め区間（本県側10・6キロ）の除雪作業が順調に進む。暖冬の影響で雪の壁は例年に比べ低めだが、青空の下、「雪の回廊」が着々と延びている。

同日は、県境の見返り峠まで約600メートル付近で作業。ロータリー車は雪を豪快に吹き飛ばしながら、県境を目指し力強く前進した。

昨年11月4日から積雪のため通行止めとなり、除雪作業は3月18日に始まった。盛岡広域振興局岩手土木センターによると、雪の壁は最大で高さ約5メートル。暖冬、少雪の影響で例年に比べ2～3メートル低い。アスピーテラインは15日午前10時に開通する。

【写真＝雲一つない青空の下、雄大な岩手山を背に、雪煙を上げて除雪作業が進む八幡平アスピーテライン＝5日、八幡平市】（2016/04/06）

石割桜、春らんまん 盛岡で見ごろ

盛岡市内丸の盛岡地裁の敷地内にある国指定天然記念物の石割桜が満開を迎えている。

石割桜は樹齢360年以上といわれるエドヒガンザクラで、今季は8日に開花。この2～3日で一気に花が開き、満開となった。16日は小ぶりの淡いピンク色の花が風に揺れ、訪れた観光客はカメラを手に記念撮影を楽しんでいた。

妻（31）、長女（1）と訪れた同市大沢川原の会社員（31）は「昨年大阪から引っ越してきたので初めて見た。石を割って伸びている桜の木に力強さを感じる」と眺めていた。【写真＝淡いピンク色の花を咲かせ、満開となった石割桜】（2016/04/17）



熊本地震、県内支援が活発化 義援金や物資送付

熊本地震を受け、県内では22日、募金など支援活動が一層活発化した。宮古市の河南中（山名秀樹校長、生徒239人）は、東日本大震災から交流している熊本市の竜南中に届けようと、メッセージパネル作りと募金活動を始めた。

23日は正午から、宮古市小山田のマリンコープDORAで募金活動を行う。岩手国体で熊本県の応援のぼりを作る北上市中野町の黒沢尻東小（沢藤耕平校長、児童732人）の児童会福祉委員会や、同校父母と先生の会は、市に義援金13万8414円を届けた。

陸前高田市からは「奇跡の一本松」の保存基金などを支援した同県宇土市と益城町に物資を積んだ10トントラック2台が出発。仕分けのため職員も同行する。【写真＝阿部裕子教育部長（右）に義援金を手渡す黒沢尻東小の児童ら】（2016/04/23）



南部曲がり屋「見納め」に 300 人 遠野の千葉家住宅

遠野市綾織町の国指定重要文化財・千葉家住宅は24日、保存修理工事を前に特別公開された。修理完了前に住宅内部を公開するのは同日が最後。市内外から約300人が訪れ、南部曲がり屋の内部や

土蔵などを見学しながら歴史と価値を学んだ。遠野市と、重文千葉家の活用を考える会（及川傳弘（ただひろ）会長）が実施。



地元の石上神楽の奉納に続いて約千個の餅まきを行った。参加者は遠野を象徴する曲がり屋の姿を楽しみ思い出と共に胸に刻んだ。

修理工事は6月に着工。曲がり屋や土蔵、大工小屋、石垣などの解体・組み立て修復を行い、2025年に完全公開する。

【写真＝特別公開された千葉家住宅の前で餅まきをする関係者。多くの地域住民や観光客が集い、遠野を象徴する南部曲がり屋を目に焼き付けた＝24日、遠野市綾織町】（2016/04/25）

錦木「理想の相撲取りたい」 新入幕に地元も祝福

日本相撲協会は25日、大相撲夏場所（5月8日初日・両国国技館）の新番付を発表し、西十両2枚目の春場所10勝5敗と勝ち越した盛岡市出身の錦木（にしきぎ）（25）＝本名熊谷徹也、伊勢ノ海部屋、盛岡・米内中＝は東前頭14枚目となり、初土俵を踏んでから10年、念願の幕内昇進を決めた。錦木は「立ち合い良く当たり、前に出る理想の相撲を取りたい。まずは幕内定着を目指す」と闘志を燃やした。

錦木関の父・熊谷建さんと、母・百合子さんも、盛岡市内の自宅で喜びに浸った。けがをせず土俵を務めるのが両親の願い。建さんは「せっかく幕内に昇進したので、長くいてほしい」と話し、百合子さんは「まだまだ技術をつけて、江戸時代の錦木（塚右衛門）関のように大関を目指して」と応援している。錦木関の幕内昇進を受け、盛岡市は25日、同市内丸の市庁舎本館2階に新入幕を祝う横断幕を掲示した。横断幕は縦90センチ、横4メートル。白地に赤と黒で「祝新入幕」などと記した。市スポーツ推進課の山屋裕一係長は「16年ぶりの県人力士の新入幕で、地元としても頑張ってもらいたいと気持ちを込めた」と話している。5月9日からは「勇往邁進（まいしん）錦木関」の横断幕を掲げる。【写真＝新入幕を決め、番付表の自身の名前を指さす錦木＝25日、東京・両国国技館】（2016/04/26）

錦木 5月場所の成績は7勝8敗で、幕内残留するだろうとの報道。



「百鹿大群舞」勇壮に、まち熱く 奥州・江刺甚句まつり



奥州市江刺区に春を告げる江刺甚句まつり（実行委主催）は4日、同区大通りのおまつり広場を中

心に本まつりが開かれた。同区の鹿踊団体による「百鹿大群舞」、江刺甚句大パレードなどを繰り広げ、まちを熱く盛り上げた。

百鹿大群舞には区内14の鹿踊保存団体から約100体が参加し、同区を中心街を巡回。通りいっばいに広がって一斉に太鼓を打ち鳴らし、

躍動感あふれる踊りを披露した。沿道を埋め尽くした観衆からは大きな拍手が湧き起こった。

約2千人が参加した江刺甚句大パレードは午後5時すぎから行われ、盛り上がりは最高潮に達した。

【写真⑤＝約2千人が沿道を埋めて踊り、熱気にあふれた江刺甚句大パレード】【写真⑥＝勇壮な踊りで観衆を魅了した百鹿大群舞】

2016/05/05)



一本桜、白の競演 八幡平市・上坊牧野

八幡平市松尾寄木の「上坊（うわぼう）牧野の一本桜」が9日、見頃を迎え、残雪の岩手山を背に、白いカスミザクラの花が美しく映えている。

「一本桜」があるのは、県道焼走り線から同牧野に入った道路沿い。市観光協会によると、極端に早かった昨年より1週間ほど遅く、例年よりも10日ほど早めの見頃となった。



同日は青空が広がり、早朝から夕方まで市内外から多くの人が訪れた。盛岡市の男性（66）は「青空の下、満開の桜と岩手山は毎年見られる光景ではなく、貴重」と熱心にカメラに収めた。風が強い場所にあり、例年満開から2～3日で散るといふ。【写真＝残雪の岩手山を背景に咲く上坊牧野の一本桜＝9日、八幡平市松尾寄木】（2016/05/10）

北太平洋公海サンマ漁に初出港

大船渡・鎌田水産

大船渡市赤崎町の鎌田水産（鎌田仁社長）の大型サンマ船第8三笠丸（199トン、清枝光臣漁労長）は12日、北太平洋公海でのサンマ漁に向け、同市赤崎町の蛸ノ浦漁港から出港した。今年からロシア海域で禁止となった北洋サケ・マス流し網漁の代替漁法として初めて実施。漁獲量や経済効果は不透明だが、通年操業が可能になり、雇用の維持・確保につなげる。

従業員や乗組員19人の家族ら約150人が紙テープで見送り、大漁旗を掲げた第8三笠丸が出港。13日に北海道根室市の花咲港に到着する。

16日から北海道などの12隻とともに出漁。北緯40度、東経150度以東の公海上で7月末まで操業し、生のサンマを海上でロシア船に売却。船団のうち3隻は冷凍サンマを花咲港に水揚げし、輸出する。

ロシア上院は昨年、今年1月から自国排他的経済水域（EEZ）でのサケ・

マス流し網漁を禁止する法案を可決。北海道東の経済に多大な影響が生じるとして、国などが代替漁法を検討し、中型サケ・マス船は公海サンマ漁を行うこととなった。



【写真＝家族らに見送られ、初めての公海サンマ漁に出発する第8三笠丸】（2016/05/13）

「南部美人」本醸造の部最高賞

世界最大級の品評会

世界最大級のワイン品評会、インターナショナル・ワイン・チャレンジ（IWC）の日本酒部門審査会は20日、本年度の結果を発表し、本醸造の部で二戸市の酒造会社南部美人（久慈浩介社長）の「本醸造 南部美人」が初めて最高賞に輝いた。久慈社長は「本醸造は最も地元で飲まれている酒。岩手が愛した味が世界に評価されたことを誇りに思う」と喜びを語った。

審査会は16日から神戸市で開かれ、346の蔵元が純米、純米吟醸など9部門で1282銘柄を出品。14カ国57人の審査員が部門ごとに各賞を決め、金賞の中から最高賞「トロフィー」の1銘柄を選んだ。

本醸造の部には75銘柄が出品され、南部美人など4銘柄が金賞を獲得。「本醸造 南部美人」は精米歩合60%で低温発酵させた上品な香りとすっきりした飲み口が特長で、久慈社長は「米の洗い方から酵母の選択まで、品質改革の成果が実った」と胸を張った。

9部門の最高賞から選ばれる「チャンピオン・サケ」は7月7日、英国ロンドンで開かれる授賞式で発表する。IWCは英国の出版社が主催し、1984年に開始。日本酒部門は2007年に創設された。【写真＝日本酒部門審査会の本醸造部門で最高賞に輝き、満面の笑みを広げる久慈浩介社長（右）＝20日、神戸市】（2016/05/21）



岩手県人会ニューズ192号、ふろくと並び ⑥ 併合 2016年6月発行

TEL/FAX (11) 3207-2383 www.iwate.org.br e-mail iwate@iwate.org.br

Rua Thomaz Gonzaga 95-M Liberdade São Paulo Brasil CEP 01506-020

岩手県人会

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil



2017 年度（平成 28 年度）県費留学生・研修生募集

(Bolsistas Kenpl Ryugaku e Kensyu 2017)

岩手県人会では 2017 年度留学生・研修生を募っております。
問い合わせはブラジル岩手県人会へ

JICA 海外日系人協会 平成 28 年度日本財団「日系スカラー
シップ」夢の実現プロジェクト募集の案内がありました。募集要項
は <http://www.jadesas.or.jp> e-mail ; saitran@desas.or.jp

その他 総領事館扱いの文部省の留学制度があります。

岩手県人会今後のプログラム (Próximo Eventos)

7月8日(金) 9日(土) 10日(日) と、県連主催の第 19 回
「日本まつり」(Festival do Japão dia 8/9/10/2016)に参加します。
提供食は「三陸わかめうどん」「コロッケ」「ギョウザ」その他を出品
予定です。

お手伝いをお願いします。お手伝い出来る日を県人会までお知らせ
ください。

8 月 28 日（日）「第 60 回会員交流誕生会」を行います。

食事はご家庭自慢の
料理の持寄りをお願いし
ます。誕生者のケーキ、
飲物など県人会で用意し
ます。

第 49 回希望郷岩手国
体開会式が 10 月 1 日
北上市総合グラウンドであ
り、各競技は各市町村で
開催されます。

当会から 6 名が参加予
定です。

